

がん治療 新時代

①

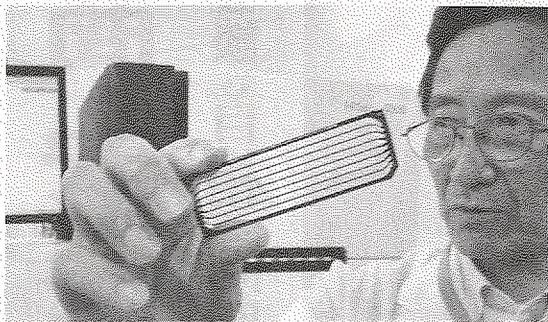
富士山麓にある静岡県立静岡がんセンターの一室。パソコンのモニター画面に「A」「G」「C」「T」の文字が色分けされて表示された。「がん患者の遺伝情報を解析した結果だ」と診断技術開発研究部の浦上研一部長は説明する。

効き目に違い

患者の協力を得て、正常な組織とがん組織を解析、発症や進行に関わる遺伝子の変化を探す。2014年に始め、約3000人分を調べた。狙いは患者一人ひとりに最適な治療法を選ぶ「個別化医療」の実現だ。

「体調がよくなった」。京都市に住む50歳の女性。16年5月から、京都大学病院で個別化医療を受けている。十二指腸がんに患っている。手術や抗がん剤を受けたが、効果は出なかった。15年末に京大病院で遺伝子を調べ、肺がん薬の効果が高そうだった。12月、投薬によって約140人を解析、8割の患者で効く可能性がある薬を見つけた。安価で高速に解析でき、超す医療機関と製薬企業に依頼した。結果が常

一人ひとりに合わせて



患者の遺伝子を解析するためのチップ
(静岡県長泉町の静岡がんセンター)

遺伝子を解析「適剤適処」

る装置が普及し、がんの研究は飛躍的に進んだ。一方でがんという病気の複雑さも見えてきた。病巣を調べると、変化している遺伝子は細胞によって違う。欧米とアジアの患者では変化しやすい遺伝子も異なる。複雑ながら、膨大なデータを駆使して治療法を選ぶ必要がある。個別化医療は海外でも盛んだ。米国は100万人以上、英国は10万人を

業15社などが協力する。肺や大腸、胃、食道などが国内では未承認で治療も実施されていない場合は、高額な自費診療になる。がんの原因となる遺伝子の変化は数多く見つかっているが、適した薬は少ない。順天堂大学の加藤俊介教授は「過剰な期待を抱く患者がいる。説明が必要だ」と話す。

「がんは人のような多細胞生物にとって宿命のようなものだ。長生きする以上、避けられない」と東京大学の黒木登志夫名誉教授は指摘する。がんとの共存を考え、その苦しみをどう克服するか。どんな治療や生き方を選び、費用をどう工面するかが求められる。

この個別化医療は通常対象に解析する。一呼吸器内科長は「個別化医療が日本に根づいてきた」と話す。

一生つき合う

しかし解析は保険適用されていないうえ、その

西山彰彦、松田省吾、草塩拓郎が担当しました。